

きらめき人

集う、企業家たち

モアイバス、今年も安全第一で運行しますよ

いのまたみつお  
猪又三男さん



志津川旭ヶ丘在住。「志津川高校の生徒やOBなど、関わったみんなの想いがこもったモアイバスを、これからも安全に運転していくのでどんどん利用してください」と笑顔で語る。

MITSUO INOMATA

「今日は、ある団体さんに乗せて町内を巡ってきました」運転業務終了後、話を伺った。

志津川高校が平成22年度から取り組んできた「南三陸モアイ化計画」により、町に寄贈されたモアイバスの運行を担うのが猪又三男さん。視察研修目的の団体や試合に臨む児童・生徒たちを乗せ、週に3〜4日ほどハンドルを握っている。毎回運行後には点検や洗車を欠かさないが、利用者の皆さんには次に使う人たちのためにも、なるべく汚さないように、座席や備品も丁寧に扱っていただけるとありがたいと、モアイバスを愛車のように大事にしている姿勢が伝わってくる。

三男さんは、高校を卒業してすぐ、兄の経営する洋品店の配達を手伝った。その後、仙台市内の運送会社に就職し、38年間トラックドライバーとして東北各地を走り回ったと振り返る。当時から車の運転はもちろん、点検整備や清掃も好きだったので、この業務はやりがいがあるし楽しいと笑顔で語る。とにかく体を動かすことが好きで、時間があると趣味の木工などに汗を流しているという三男さん。

「新年も安全第一で快適な運行に努めますよ」責任感ある抱負の言葉は、実に頼もしい。

生

ごみの分別回収をはじめ、町の自然資源を生かしたエコなまちづくりに取り組む南三陸町へ、それをさらに加速すべく、12月1日から新たな地域おこし協力隊員が移住した。関東で生まれ、大学では森林科学を学んでいた佐野薫さん。薫さんの活動領域は、森林の資源活用。林業・運送業・建設業を営む町の若手3人によって立ち上げられた「合同会社MMR」とともに、町の木材を利用した木質ペレットの製造と、それを燃料としたストーブやボイラーの普及を狙う。価格の変動が激しく有限でもある化石燃料に代わり、町に既存の資源を使うことで、エネルギーの自給かつ安定供給に加え、いまだ十分に管理や活用がされていない里山の環境保全も担えるという。3年間の任期中に町内にペレットの製造工場を設けることを目標とし、各所へのストーブやボイラー導入のため、営業活動やコンサルティングなどを行っていく。

「この寒い地域で暮らす上で、どうせ温まるなら町の木で暖をとればいいな、と思ったんです。南三陸に山や森があってよかったな、と住民が感じられる町を目指して頑張っていきたいです！自身もペレットストーブのある暮らしがしたいので、景色の良い空き家があれば紹介してください！」

KAWORI SANO



「この町との出会いが運命的なものだったと言えるような未来を作っていきたいです」と、志津川御前下に建つ木造オフィス「M LAB」を拠点に、火の温もりを感じながら仕事に励む

かのり  
佐野の薫さん

山や森があつてよかったなと感じられる町を

南三陸なう 検索 もっと詳しく知りたい人は、南三陸町公式ブログ 南三陸なうをご覧ください。